

平成28年5月31日

八街市議会議長 加藤 弘 様

議会運営委員長 林 修 三

文教福祉常任委員長 小山 栄 治



議会運営委員会・文教福祉常任委員会合同視察研修報告書

先進地視察の概要を下記のとおり報告します。

記

1. 視察者名

[議会運営委員会]

- ・委員長 林 修三(文教福祉常任委員)
- ・副委員長 林 政男
- ・委員 新宅雅子、川上雄次(文教福祉常任委員)、木村利晴

[文教福祉常任委員会]

- ・委員長 小山栄治
- ・副委員長 服部雅恵
- ・委員 京増藤江、川上雄次(議会運営委員)、林修三(議会運営委員長)、小澤孝延、山田雅士

[その他]

- ・議長 加藤 弘

[随員職員]

- ・議会事務局 須賀澤勲、嘉瀬順子

※実参加数 議員11人・職員2人 計13人

2. 視察期間

平成28年5月16日(月)～17日(火) (2日間)

3. 視察先及び視察目的

(1) 5月16日(月)

神奈川県 伊勢原市

・特色ある教育モデル推進事業について

神奈川県 小田原市

- ・議会基本条例について
- ・小田原市アクティブシニア応援ポイント事業について

(2) 5月17日(火)

静岡県 沼津市

- ・議会の現状について
- ・静浦小中一貫学校について

4. 視察報告

(1) 伊勢原市

◆市の概要 [面積 55.56km² 人口 101,536人]

神奈川県ほぼ中央に位置する市であり、北西端に位置する大山が有名。1960年代前半までは純農村地帯だったが、後半から宅地開発がすすみ、現在では東京郊外のベッドタウンとしての側面が強い。一方で農業も盛んである。目下、市東部で歌川産業スクエアという流通拠点を開発中。

◆視察時の状況

- ①視 察 日 平成28年5月16日(月)
- ②視 察 時 間 午前10時～午前11時30分
- ③視 察 会 場 伊勢原市役所
- ④応対者職氏名 伊勢原市議会事務局
主幹(兼)議会総務係長 佐伯様
- ⑤写 真 添 付 別添

【特色ある教育モデル推進事業について】

◆視察先調査事項の概要

外国語教育の充実、自然体験、伝統文化の学習や ICT 機器の利活用を通して「地域に根ざしたグローバル人材の育成を図る。」という事を目的として、文部科学省教育課程特例校、市特色ある教育モデル推進校として、平成26年4月1日より研究を開始。

◆市政との関連性（視察地選択の理由等）

外国語教育は、本市のこれからの子供たちにとっても必要なものであり、取り組みを学びたいと考えた。また、地域に根ざしたグローバル人材の育成という点でも、ふるさとを愛する心をどのように育てているのか勉強したいと考え選択しました。

◆ 市政の課題等に対し参考になった点等

中学校英語教員の配置や高校との連携、また、ふるさとの良さをタブレットを使って発信、NPO 法人を活用したチャレンジ国際交流等、外国語を身近に感じる取り組みを本市でも出来るところから取り入れられたらと思います。

(2) 小田原市

◆ 市の概要 [面積 113. 81km² 人口 193,931 人]

北条早雲築城の小田原城を中心に城下町及び宿場町として発展。小田原ちょうちん、かまぼこを中心に観光地として栄えてきた。最近では若者の東京ベットタウン化が進んでいると言われているが、人口が流出している。

◆ 視察時の状況

- ① 視 察 日 平成 28 年 5 月 16 日 (月)
- ② 視 察 時 間 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
- ③ 視 察 会 場 小田原市役所
- ④ 応 対 者 職 氏 名 小田原市議会事務局 議会総務課
議事調査係 菊川様
- ⑤ 写 真 添 付 別添

【議会基本条例について】

◆ 視察先調査事項の概要

小田原市議会改革～議会基本条例

・平成 25 年 3 月 29 日条例制定

① 市民に対する議会報告会を年 2 回行う。

② 市民の意識把握のため、市民に対するアンケートの実施、集計、分析

○市議会広報広聴常任委員会申し合わせ事項(平成 28 年 1 月 14 日)

○議会報告会は参加者が少ないが今後も継続して行く方向

◆ 市政との関連性 (視察地選択の理由等)

議会基本条例は、全国で制定している議会が約 50 %に及んでいる。八街市では未制定。現在議会改革検討協議会で継続審議中だが、それに向けての参考事例として選択した。

◆市政の課題等に対し参考になった点等

制定には、議会側に強いリーダーシップが必要なことと、議会基本条例の課題も多くある。開かれた議会を市民に提示していくにはいろいろな方法があり、総合的には広く検討していくべきだろう。

【小田原市アクティブシニア応援ポイント事業について】

◆視察先調査事項の概要

高齢者のボランティア活動実績にポイントを付与し、ポイントに応じた商品と交換することにより、高齢者の社会参加や生きがいを奨励、支援する。

- ・60歳から事業に参加できる。
- ・ポイント交換商品を地場産品とした。

◆市政との関連性（視察地選択の理由等）

高齢化の進む本市としても、健康寿命の延伸は大きな課題であります。ボランティア活動にポイントを付与することにより、高齢者の社会参加や生きがいを支援することは健康寿命の延伸に大きな効果が期待できると考え選択しました。

◆市政の課題等に対し参考になった点等

ボランティア精神にあふれる本市ですので、元気な高齢者がボランティア活動をすることに対し、ポイントを付与することは健康寿命の延伸に大きな効果が期待できます。交通の問題等課題はありますが取り組んでいけたらと思います。

（3）沼津市

◆市の概要 [面積 186.96km² 人口 194,478人]

人口は、1995年の21万6千人から19万4千人と減少傾向にあるものの駿河湾の豊富な水産資源を活かした水産業と山に囲まれた地形によるみかん、お茶、野菜の収穫により発展している。

◆視察時の状況

- | | |
|---------|------------------|
| ①視察日 | 平成28年5月17日(火) |
| ②視察時間 | 午前9時30分～午前11時30分 |
| ③視察会場 | 静浦小中一貫学校 |
| ④対応者職氏名 | 沼津市議会事務局 書記 上田様 |
| ⑤写真添付 | 別添 |

【議会の現状について】

◆視察先調査事項の概要

議員数が 28 名で 6 つの常任委員会(総務、文教産業、民生病院、建設水道、一般会計予算決算、特別会計企業会計予算決算)が構成され、年間の議会活動を展開している。また、沼津駅鉄道高架事業推進委員会を特別委員会として編成し(H27. 5. 21 より)地域の活性化に努めている。

◆市政との関連性(視察地選択の理由等)

本市と同じく議会基本条例は制定されていなかったが、事務局職員 13 人(政策調査担当含む)で職務にあっており、会議録作成、検索システム及び本会議映像システムを導入し、開かれた議会を自分たちの手による活動に努めている。

◆市政の課題等に対し参考になった点等

定例議会から本会議の生中継、及び録画中継をインターネットで配信している点については、近く八街市でも導入していくべき点で参考にしたい。

【静浦小中一貫校について】

◆視察先調査事項の概要

少子化に伴い児童・生徒が減少している中、小中両方の課題を同時に解決できる小中一貫学校を平成 26 年 4 月に開校。「9 年間の連続性」「ことば」「地域」を教育活動で重視。

◆市政との関連性(視察地選択の理由等)

本市でも少子化により児童・生徒の減少が見られ、将来は十分このような小中一貫学校も考えに入れていく必要があると思われる。中1ギャップの解消、異年齢の交流、学力向上にもなっている。

◆市政の課題等に対し参考になった点等

6 年をかけ、小中一貫校推進委員会を設置し、地域と共に十分協議を重ね、説明会やアンケート調査を繰り返し、理解深化に努めたこと。教室の配置方法、スペースの作り方、小中学校から集まる教職員の意識を一本化する「シラバス」に基づくマネジメント。1 年生から 4 年生を初志部、5 年生から 7 年生を立志部、8 年生から 9 年生を大志部とした 9 年間の連続性など。

伊勢原市



小田原市



沼津市

